

世界自然遺産小笠原諸島 成果と課題

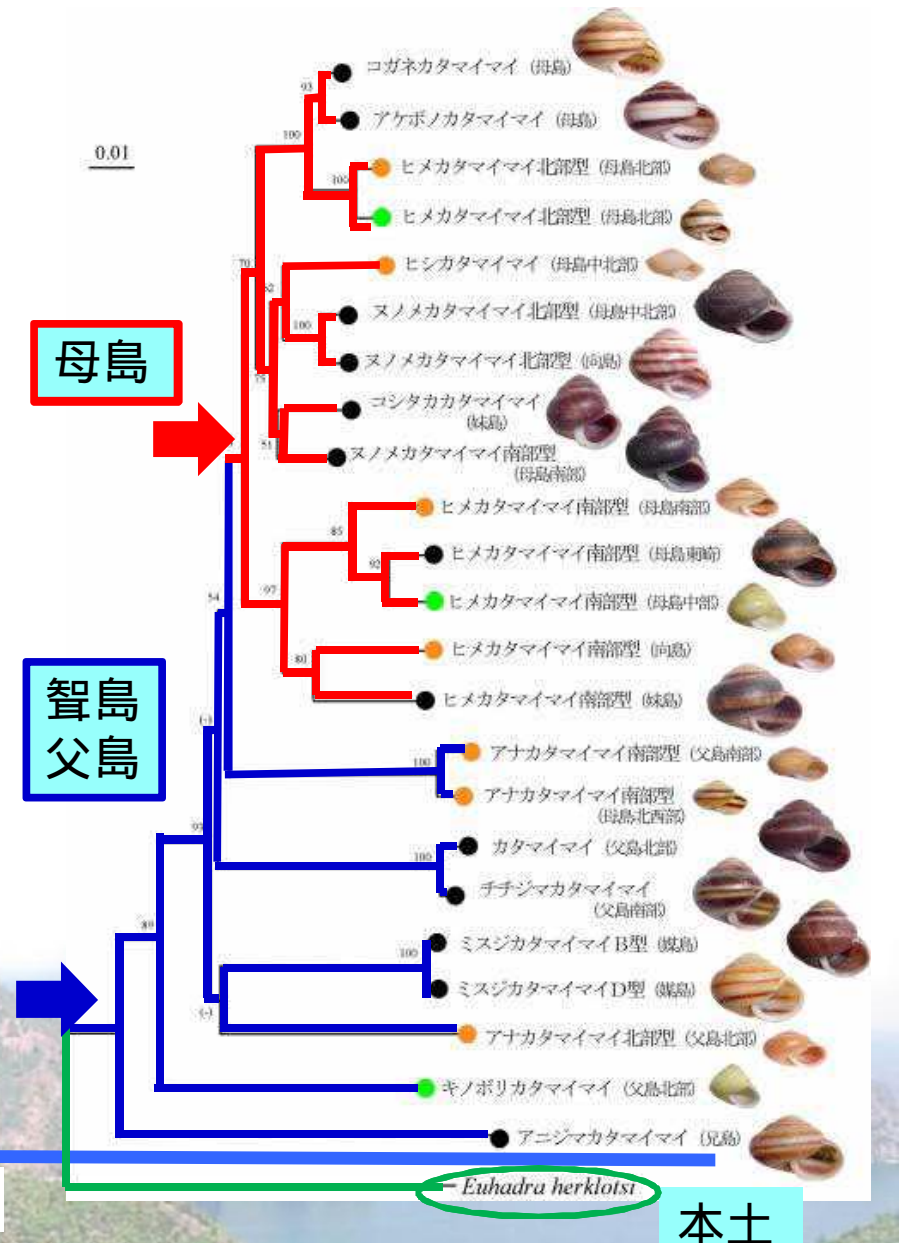


認められた小笠原の世界遺産としての価値

(9) 陸上、淡水域、沿岸および海洋の生態系、動植物群集の進化や発達において、進行しつつある重要な生態学的・生物学的過程を代表する顕著な例であること。

半地下	地表	半樹上	樹上	
				兄島
<i>M. mandarina</i>	<i>M. aijimana</i>	<i>M. hirazet</i>	<i>M. suenoae</i>	
				母島北部
<i>M. ponderosa</i> (N type)	<i>M. auricola</i>	<i>M. exoptata</i>	<i>M. habajimana</i> (N type)	
				母島中部
<i>M. ponderosa</i> (N type)	<i>M. palita</i>	<i>M. exoptata</i>	<i>M. habajimana</i> (S type)	
				母島南部
<i>M. ponderosa</i> (S type)	<i>M. auricola</i>	<i>M. habajimana</i> (S type)		

図は「世界遺産一覧表記載推薦書 小笠原諸島」を一部改変



小笠原諸島世界遺産地域 登録前の課題

2003年5月26日 第4回世界自然遺産候補地に関する検討会

知床、小笠原、琉球を候補とする(既に、白神、屋久島は登録)。

小笠原の問題

- ・外来生物の「影響が激しすぎる」。事前の対策がないと無理。
(海洋島の脆弱性、今なら間に合うが5年経つと保全できないかも)
- ・国立公園に環境省の事務所がなく、レンジャーがない



外来種(動物)対策

2003当時	2010推薦時	2010状況	2012状況
ヤギ		一部根絶	父島以外全島から根絶
オオヒキガエル		一部対処中	対応のランク低下
アノール		対応研究 エリア排除フェンス	エリア排除による オガサワラシジミ 保全
	ノネコ	エリア排除フェンス 捕獲、里親	エリア排除 不妊化 捕獲、里親
	クマネズミ	西島から根絶	髯島、東島、南島、 兄島から根絶
	ノブタ・ウシガエル	根絶	痕跡なし
	ニューギニアヤリ ガタリクウズムシ	拡散防止研究 自主ルール	拡散防止、靴底 洗浄施設 フェンス技術開発 中 域外保全開発中

外来種(植物)対策

2003当時	2010推薦時	2010状況	2012状況
アカギ		薬剤による枯殺技術確立 弟島から根絶	エリア排除中
	ギンネム	エリア排除中	ヤギ根絶後、増加
	モクマオウ	エリア排除中	乾性低木林ではかなり減少 駆除していない場所では、ヤギ根絶後増加
	キバンジロウ	エリア排除中	エリア排除中
	ガジュマル	エリア排除中 ガジュマルクダアザミウマ侵入でやや衰弱	増加の勢いは弱い が、虫に抵抗性を持つかもしれず、予断を許さない
	シチヘンゲ	エリア排除中	ヤギ根絶後、増加
	在来種植栽による遺伝子攪乱	WGで検討	遺伝的変異の少ない種を選定済み

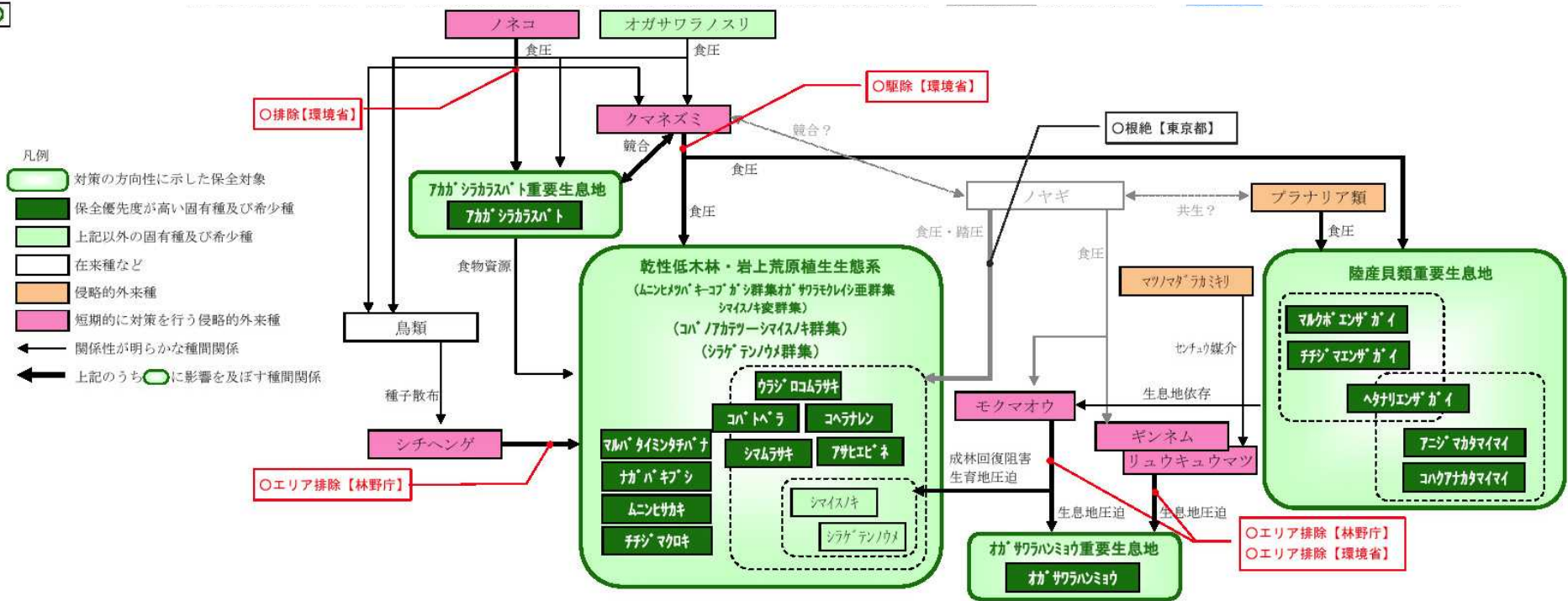
生物間相互作用に基づく順応的管理



ネズミを根絶すると、海鳥が増える前にオガサワラノスリが絶滅するかもしれない
まずは小さな島で実験する

生物間相互作用に着目した生態系の順応的管理アクションプラン

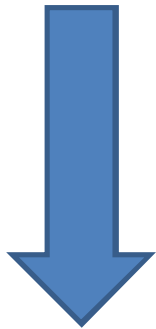
兄島の例



根絶の成果例



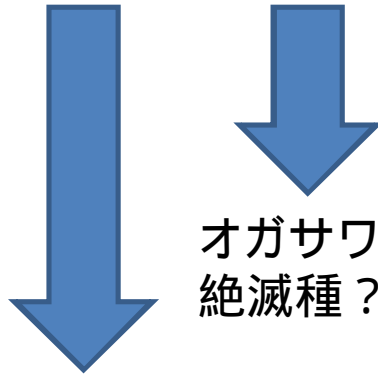
ノヤギ排除



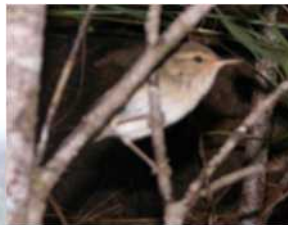
ノヤギ駆除後、智島で
オオハマギキョウ復活



クマネズミ排除



オガサワラヒメウミナギドリ
絶滅種？の再発見



ハシナガウグイス増加



ネコ保護・移住



オナガミズナギドリ巣立ち
カツオドリはまだ



エリア排除の成果例

母島グリーンアノール対策
2haにトラップ5300個



東平フェンス
ノヤギエリア排除
ノネコエリア排除



オガサワラシジミ保護

まだ絶滅していない

アカガシラカラスバト・希少植物保護

カラスバトの目撃頻度が増えている



小笠原諸島世界遺産地域 登録と課題

5. 当該国に以下を要請する：

- a) 侵略的外来種対策を継続すること。
- b) 観光や諸島へのアクセスなど、すべての重要なインフラ開発について、事前に厳格な環境影響評価を確実に実施すること。

6. 当該国に以下を強く奨励する：

- a) 資産における海域公園地区をさらに拡張することを検討すること。それにより、管理効率が向上し、海域と陸域を結ぶ生態系の完全性が強化されることが期待される。
- b) 気候変動が資産に与える影響を評価し、適応するための研究およびモニタリング計画を策定、実施すること。
- c) 将来的に来島者が増加することを予測し、注意深い観光管理を確実に実施すること。特に、小笠原エコツアーリズム協議会を強化するために、科学委員会をそのメンバーに加え、諸島の価値を保護するような適切な観光方針を助言してもらうこと。
- d) 観光による影響を管理するために、観光業者に対して、必須条件と認証制度を設定するなどして、注意深い規制と奨励措置を確実に行うこと。



侵略的外来種対策を継続

保全のための事業

- ・生態系保全アクションプランで毎年度の各事業の進捗状況及び実施計画を科学委員会で審議、承認
- ・主要な各事業それぞれに助言のための委員会

WGで未解決の問題を検討

種間相互WG

- ・種間相互作用の解明によるアダプティブマネジメント
- ・ヤギ、ネズミ、モクマオウを駆除している兄島を対象、研究事業

外来種侵入WG

- ・新たな外来種の侵入を防止するための施策の検討
- ・検疫、あるいはそれに準じる対策

生態系アクションプランWG

- ・アクションプランのリニューアル



重要なインフラ開発について、事前に厳格な環境影響評価

公共事業における環境配慮について、検討すること(H24.2.24科学委員会)。
公共事業に関する勉強会を検討

海域公園地区をさらに拡張することを検討

科学的な価値をどこに求めるか、関係者との話し合いなど、これから検討
(H23.8.5科学委員会、事務局)

気候変動の影響評価とモニタリング計画

世界自然遺産地域の森林生態系における気候変動の影響のモニタリング等事業(H21-24) 知床・白神・小笠原・屋久島



小笠原エコツアーリズム協議会に、科学委員会をそのメンバーに加え、助言してもらうこと

エコツアーリズム協議会に、科学委員会委員長が参加、助言する体制とする

観光業者に対して、必須条件と認証制度を設定するなどして、規制と奨励措置を実施

現行の規制等の徹底及び見直し

陸域ガイドの登録制度をH23から運用開始(エコツアーリズム協議会)



ご静聴ありがとうございました

